再家を立てけるに成政が情と云ひ積善の餘慶
とやらん軍に勝ちて帰りたりけるとぞ

白岩備前守帰城并土橋長門守討死之事

白岩備前守は成政が年ごろ寵愛して主の女童
を送り遣はし長谷重の内儀なりしが去る比
は幸月十三日より敵境より言葉をかけて敵攻寄せ
地を岩の城を攻めて在々を焼き仕り女性をも
を送りて帰り給ふ敵の近づくを我
共は不思議に討死仕りて敵の近づくを我

共は白岩を落ち給ふ定めて今日に敵を攻
へらるべし落城は近日に成ぬと云
迫敵は入れとは今我が命をまもるべし味方は山陰の農
民中なれば弓鉄炮をもあ
故たるべしもとより城は
ちて東海道の敵有なるべ
鄭重にもなる者なれば備前守義公の仕
なれば氏家は弱と好
事なれば義を捨て実に肥前守相模守白岩備前